

製品名: WTAP ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab19938

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	WTAP
別名	WTAP; KIAA0105; Pre-mRNA-splicing regulator WTAP; Female-lethal(2)D homolog; hFL(2)D; WT1-associated protein; Wilms tumor 1-associating protein
遺伝子 ID	9589.0
SwissProt ID	Q15007
免疫原	抗血清はヒト WTAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

背景

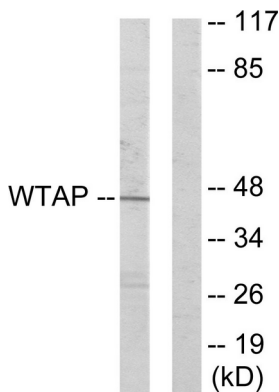
ウィルムス腫瘍抑制遺伝子 WT1 は、特定の細胞遺伝子の転写および転写後制御の両方に関与していると考えられています。この遺伝

子は、普遍的に発現する核タンパク質である WT1 関連タンパク質をコードしています。WT1 タンパク質と同様に、このタンパク質は核質全体およびスペckルに局在し、部分的にスプライシング因子と共局在します。この遺伝子の選択的スプライシングにより、3つの異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2012 年 7 月]、機能: CCNA2 の 3' UTR に結合してその安定性を高めることで、G2/M 細胞周期移行を制御します。WT1 の DNA 結合能を阻害し、WT1 標的遺伝子の発現を阻害します。 mRNA スプライシングの調節に関与している可能性がある。、誘導:平滑筋細胞において、血清除去後、細胞が成熟し非増殖性になると上方制御される。、PTM:DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。、類似性:fl(2)d ファミリーに属する。、サブユニット:WT1 と相互作用する。、組織特異性:普遍的に発現する。、

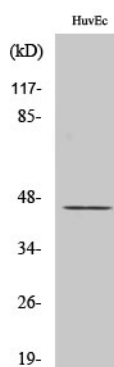
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



WTAP 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



WTAP ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析
二次抗体は 1: 20000 に希釈した。